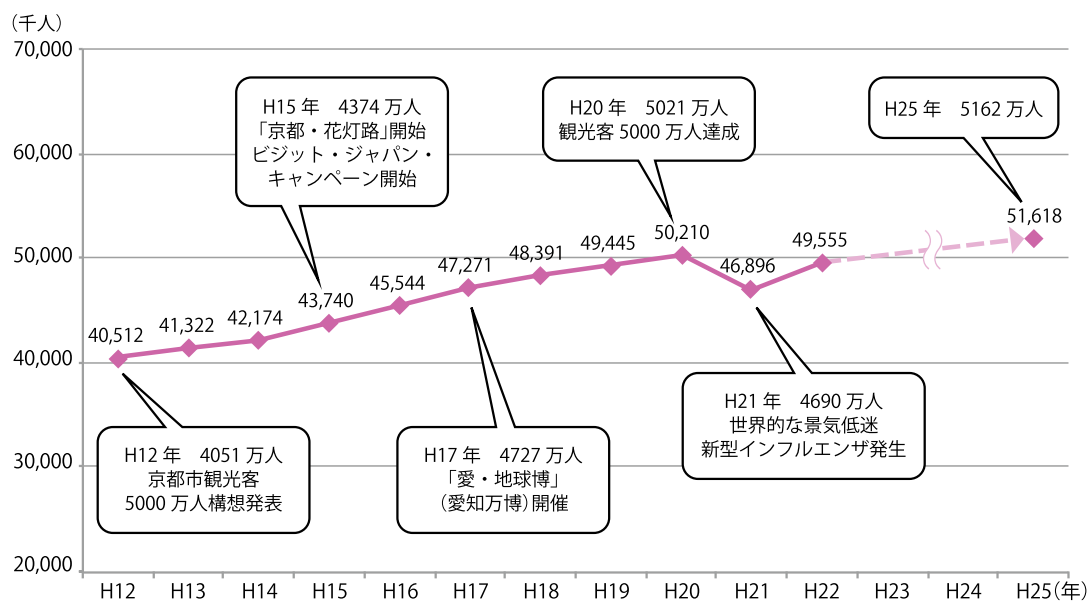


3 京都観光の現状と課題

(1) 京都市を訪れる観光客数

平成12年(2000年)に京都市は観光客5000万人構想を発表し、平成20年(2008年)に観光客5000万人を達成しました。「未来・京都観光振興計画2010⁺」では「観光スタイルの質」、「観光都市としての質」の向上への取組を進め、平成25年(2013年)には史上最高の5162万人を達成しました。(図9 参照)

図9 観光客数の推移

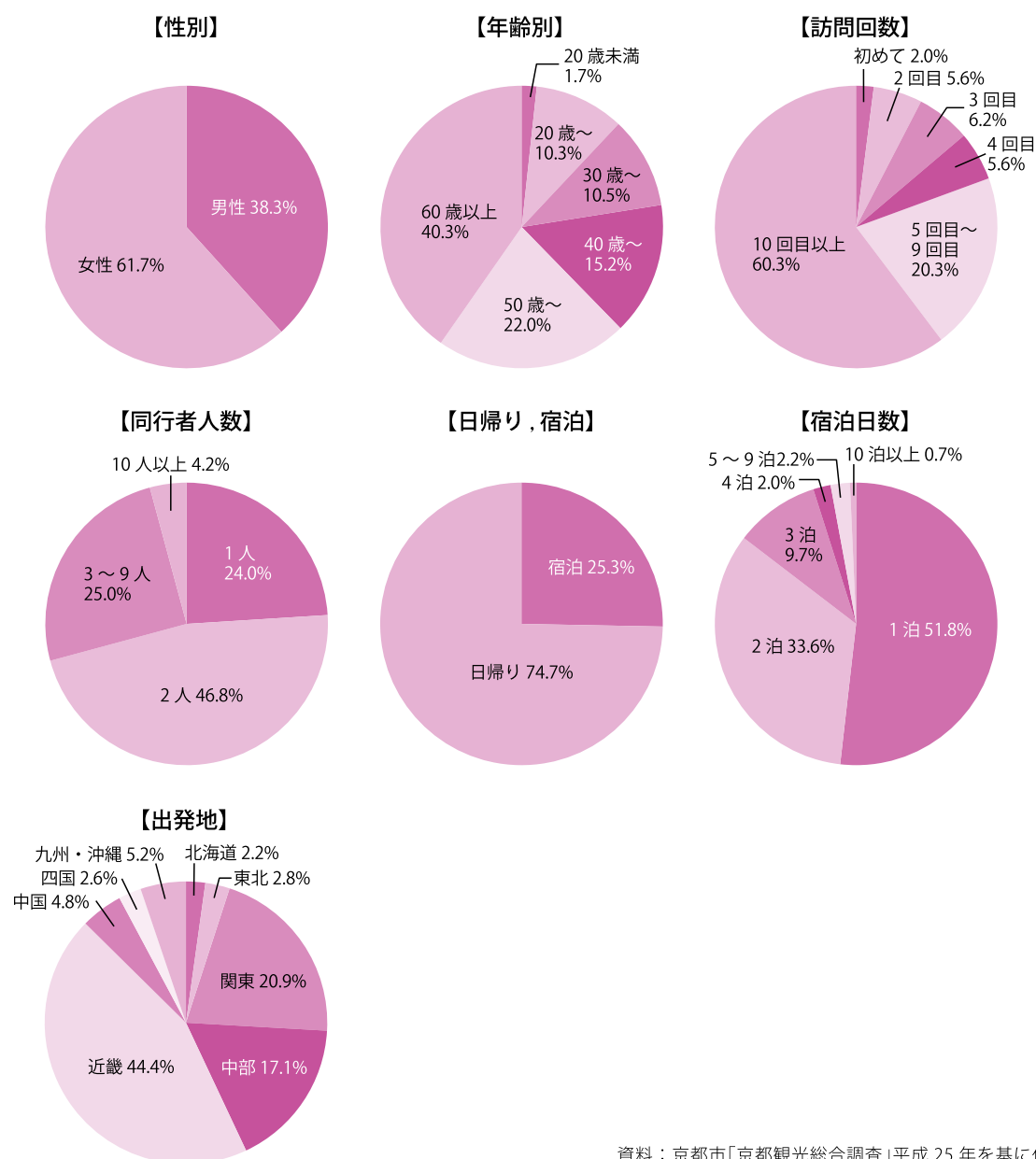


資料：京都市「京都観光総合調査」平成25年を基に作成
※H23及びH24は調査手法の変更により観光客数を推計していない

(2) 京都市を訪れる観光客の特徴

京都を訪れる観光客の特徴は、「女性が約6割」、「50代以上の方が約6割」、「訪問回数5回目以上の方が約8割」、「2人連れて来訪される方が約半数」、「日帰りが約4分の3」、「宿泊者のうち1泊の方が約半数、平均宿泊数1.89泊」、「出発地別割合は近畿から約4割、関東から約2割」となっています。(図10 参照)

図10 京都市を訪れる観光客の特徴



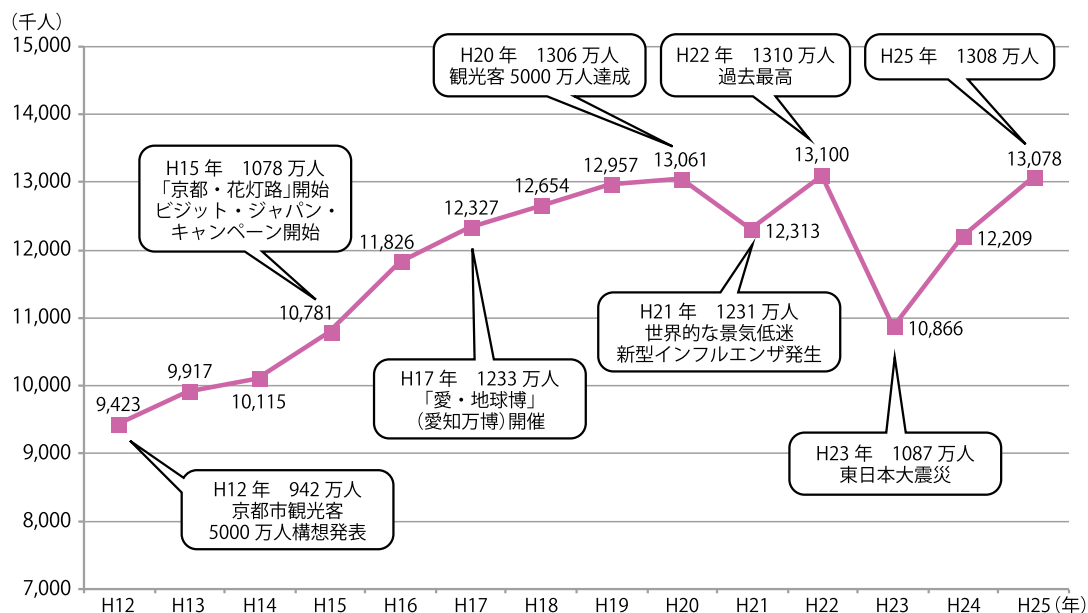
資料：京都市「京都観光総合調査」平成25年を基に作成

訪問回数では、5回目以上の方が約8割を超え、何度も京都にお越しになる方々が多い一方、年齢別では50代以上の方に比べ、20代の若者世代や30代・40代の家族連れの方の来訪割合が低いため、これらの方にお越しいただく取組を推進する必要があります。

(3) 京都市への宿泊客

京都市に宿泊される観光客は、平成23年（2011年）の東日本大震災により一時的に落ち込みましたが、その後堅調な回復をみせ、平成25年（2013年）には年間1308万人の方が宿泊されました。（図11 参照）

図11 宿泊客数の推移



資料：京都市「京都観光総合調査」平成25年を基に作成

月別の宿泊客数では、8月が最も多く、次いで5月、11月となっています。一方、1月・2月の宿泊客数が少なく、冬の時期に宿泊いただく取組が必要となっています。（図12 参照）

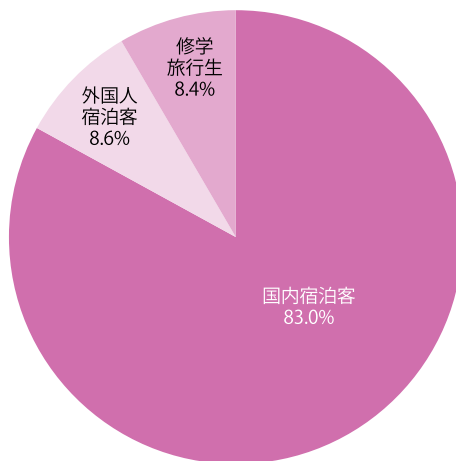
図12 月別の宿泊客数



資料：京都市「京都観光総合調査」平成25年を基に作成

宿泊客のうち、修学旅行生数は110万人で約8.4%，外国人宿泊客数は113万人で約8.6%となっており、国内宿泊客数が約8割を占めています。(図13 参照)

図13 宿泊客の内訳

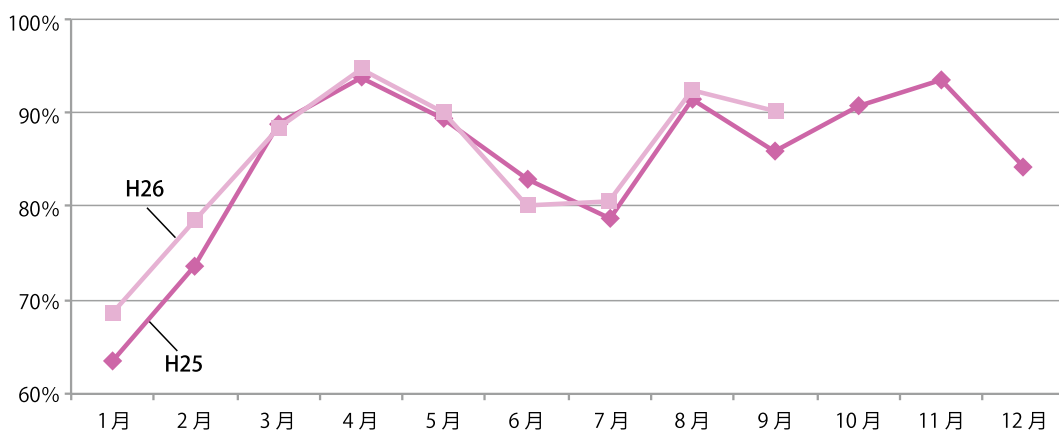


資料：京都市「京都観光総合調査」平成25年を基に作成

(4) 京都市内の宿泊施設

観光シーズンにおける市内主要ホテルの客室稼働率は90%を超え、宿泊施設を確保することが困難になっており、多様な宿泊施設の確保が課題になっています。また、外国人観光客の更なる誘致やMICE誘致を進めるに当たっては、世界的に知名度の高いホテルや長期滞在者が利用しやすい宿泊施設の整備も必要です。(図14 参照)

図14 市内主要ホテルの客室稼働率



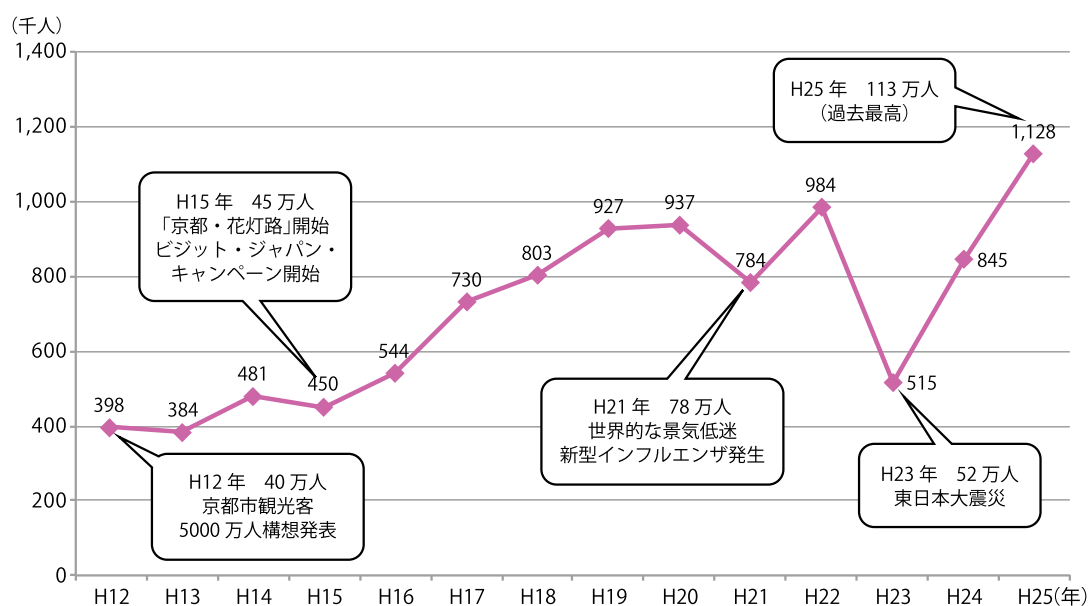
資料：一般社団法人日本ホテル協会京都支部提供

(5) 外国人観光客

平成25年(2013年)の京都府への外国人観光客の訪問数は、約258万人※5と推計されます。

また、平成25年(2013年)の外国人宿泊客数は113万人となり、初めて100万人を突破しました。平成15年(2003年)の外国人宿泊客数は45万人でしたが、これ以降、世界的な景気低迷、東日本大震災による落ち込みはありましたが、約2.5倍に増加しています。(図15 参照)

図15 外国人宿泊客数の推移

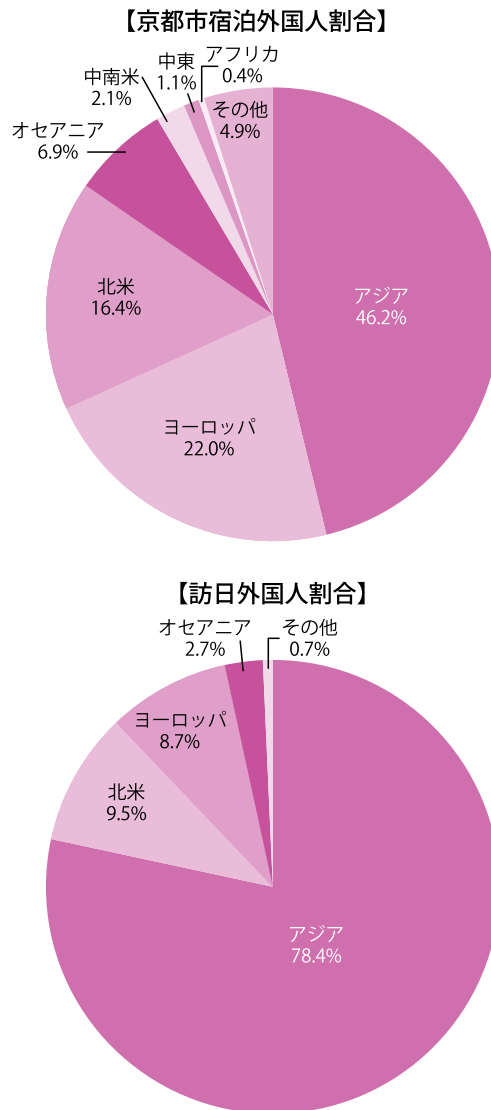


資料：京都市「京都観光総合調査」平成25年を基に作成

※5 平成25年(2013年)の訪日外国人客数1036万人に、観光庁による訪日外国人消費動向調査の京都府訪問率(観光・レジャー目的)24.9%を乗じて推計

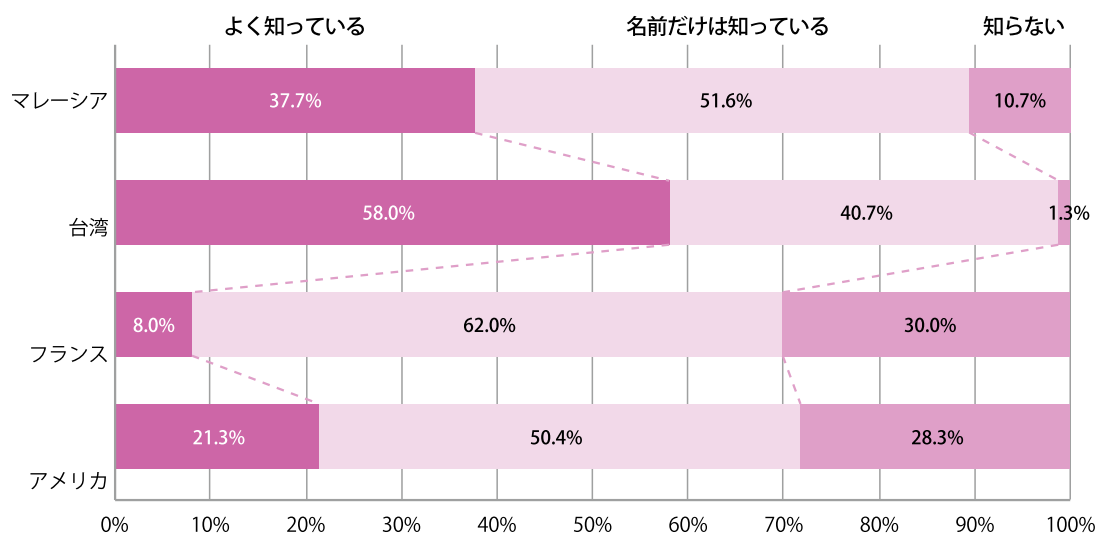
外国人観光客の出発地で見ると、日本全体では8割近くがアジアからの観光客であるのに対し、京都では、アジアからの宿泊客が46.2%を占める一方、ヨーロッパと北米とオセアニアからは45.3%の宿泊客にお越しいただいています。(図16 参照) しかし、アジアに比べて欧米では、京都のことをよく知っている方がまだまだ少ないことが課題になっています。(図17 参照)

図16 京都市宿泊外国人割合及び訪日外国人割合



資料：日本政府観光局(JNTO) 国・地域別 訪日外客数, 京都市「京都観光総合調査」平成25年を基に作成

図17 京都の認知度



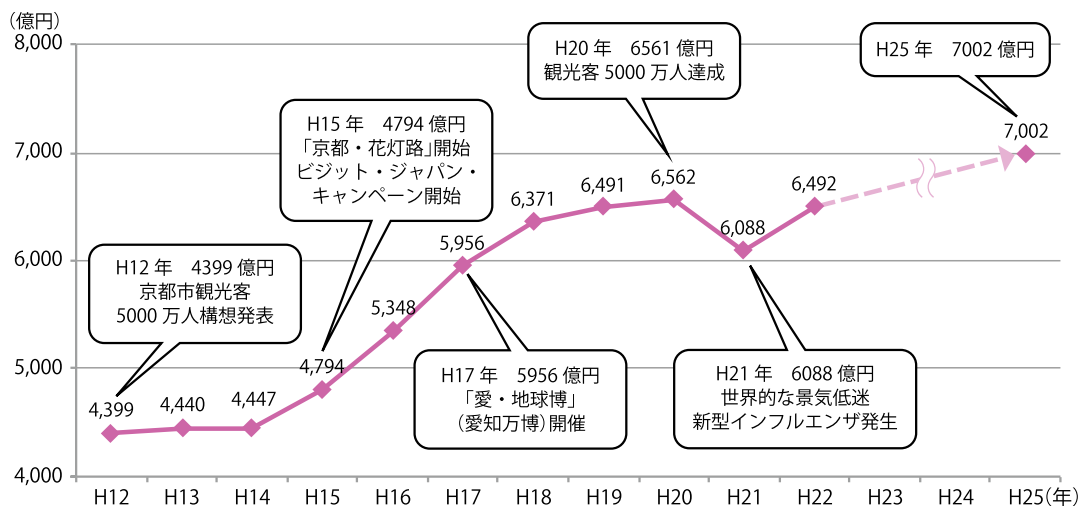
資料：京都市「海外4地点京都市認知度調査」(平成26年)

世界全体の旅行市場の拡大傾向が続く中で、より多くの外国人観光客に京都の魅力をお伝えし、京都にお越しいただき、交流の拡大を図ることは、京都の魅力の維持、創出、活用を進めるうえで、大変重要であるといえます。

(6) 観光消費額

観光客が旅行中に京都市内で支出した、交通費、宿泊代、土産代などの合計金額である観光消費額は、観光客数の増加に伴い着実に増加し、平成25年(2013年)には7002億円となりました。(図18 参照)

図18 京都市の観光消費額の推移



資料：京都市「京都観光総合調査」平成25年を基に作成※H23及びH24は調査手法の変更により観光消費額を推計していない

観光消費額は、京都観光に来られた観光客が直接消費される金額です。

観光消費額の増加は、地域経済にもたらす経済効果も大きく、観光産業が京都経済をけん引していくうえで、非常に重要な指標となっています。

(7) 京都観光の印象

京都観光については9割以上の観光客に御満足いただき、京都を再び訪れたいという「再来訪意向」は日本人95.4%,外国人91.1%,親しい友人に京都観光を勧めたいと思う「紹介意向」は日本人88.2%,外国人96.1%と高い評価をいただいています。項目別で見ると、日本人観光客は、「寺院・神社, 名所・旧跡」, 「自然風景」や「伝統文化」に高い評価をいただいています。外国人観光客は、「街のきれいさ・清潔さ」, 「治安」や「寺院・神社, 名所・旧跡」に高い評価をいただいています。(図19 参照) これは、京都の「門掃き」の伝統や年間20万人に及ぶ方々が参加する「世界の京都まち美化市民総行動」等の取組による美化清掃活動、商店街への防犯カメラの設置や自治会など地域コミュニティを中心とした安心安全の取組などの成果が表れているものです。

図19 再来訪意向, 紹介意向, 総合満足度, 個別満足度

再来訪意向, 紹介意向		大変 そう思う	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	ややそう 思わない	そう 思わない	まったくそう 思わない	平均
		7	6	5	4	3	2	1	
日本人	京都を再び訪れたいと思う	57.8%	27.2%	10.4%	3.0%	0.4%	0.7%	0.5%	6.3
	親しい友人に京都観光を勧めたいと思う	39.0%	32.2%	17.0%	9.6%	0.9%	0.7%	0.6%	5.9
外国人	京都を再び訪れたいと思う	42.3%	37.2%	11.6%	5.7%	2.1%	0.6%	0.5%	6.1
	親しい友人に京都観光を勧めたいと思う	50.7%	37.1%	8.3%	3.1%	0.4%	0.2%	0.2%	6.3

総合満足度	大変満足	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	大変不満	平均
	7	6	5	4	3	2	1	
総合満足度(日本人)	22.7%	52.4%	17.5%	5.1%	1.2%	0.7%	0.4%	5.9
総合満足度(外国人)	36.7%	48.6%	9.7%	4.2%	0.4%	0.1%	0.3%	6.2

個別満足度		大変満足 ←————→ 大変不満							平均	体験して いない
		7	6	5	4	3	2	1		
日本人	寺院・神社, 名所・旧跡	47.4%	36.0%	10.9%	4.2%	0.9%	0.4%	0.2%	6.2	11.0%
	自然風景	44.3%	36.0%	13.3%	5.1%	0.7%	0.4%	0.2%	6.2	5.5%
	伝統文化	37.4%	36.7%	15.9%	8.9%	0.5%	0.5%	0.1%	6.0	17.7%
外国人	街のきれいさ・清潔さ	61.7%	29.5%	7.1%	1.3%	0.3%	0.0%	0.1%	6.5	7.9%
	治安	60.5%	30.4%	7.4%	1.2%	0.2%	0.2%	0.1%	6.5	10.0%
	寺院・神社, 名所・旧跡	49.9%	38.7%	9.5%	1.8%	0.1%	0.0%	0.0%	6.4	7.0%

また、「京都市民のおもてなしを感じたか」の質問には54.1%の方に京都市民のおもてなしを感じていただいている結果となっています。(図20 参照)

図20 京都市民のおもてなし度

京都市民のおもてなし度	大変 そう思う	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	ややそう 思わない	そう 思わない	まったくそう 思わない	平均	体験して いない
	7	6	5	4	3	2	1		
市民のおもてなしを感じた	12.2%	20.6%	21.3%	34.3%	5.5%	3.5%	2.6%	4.8	21.5%

京都観光に感動した項目については、日本人観光客は京都の大きな魅力である「寺院・神社、名所・旧跡」、外国人観光客は、地元の人が旅行者にやさしいなどの意見があり、「京都人のおもてなし」となっています。(図21 参照)

図21 個別感動度

個別感動度(日本人)	割合	個別感動度(外国人)	割合
寺院・神社, 名所・旧跡	30.1%	京都人のおもてなし	17.9%

一方で、残念に感じたことを項目別に見ると、日本人観光客では「電車・バスなどの公共交通機関」、「人が多い・混雑」を、外国人観光客は「言語、案内、標識」、「物価」を挙げています。公共交通機関の利便性向上や特定時期・地域の混雑分散化、外国人観光客向けの受入環境を整える必要があります。(図22 参照)

図22 個別残念度

個別残念度(日本人観光客)	割合	個別残念度(外国人観光客)	割合
電車・バスなどの公共交通機関	13.2%	言語、案内、標識	13.7%
人が多い・混雑	12.9%	物価	11.2%

「ラグビーワールドカップ2019」や平成32年(2020年)開催の「東京オリンピック・パラリンピック」、「関西ワールドマスタースゲームズ2021」等の世界的なスポーツ大会の開催を見据え、京都の「ほんもの」の魅力を更に磨き、市民ぐるみの「おもてなし」を高める。京都観光の強みを伸ばし、きっちりと不満を解消する。「感動」を「あこがれ」に昇華させ、丹精込めた「おもてなし」をすべての方に届けることで「世界から尊敬される観光都市」の地位を確立することが重要です。

図19～22 資料：京都市「京都観光総合調査」平成25年を基に作成

4 これまでの取組と成果

平成22年(2010年)から推進している「未来・京都観光振興計画2010+5」では、「5000万人感動都市」を目指し、「量の確保」と併せて「質の向上」に取り組むこととし、7つのプロジェクト、「暮らすように旅する」、「歩いてこそ京都」、「市民の京都再発見」、「心で“みる”京都」、「観光客の不満をゼロに」、「新たな京都ファン獲得」、「京都の魅力をうまく伝える」の下に、116の事業を実施してきました。

「未来・京都観光振興計画2010+5」における主な取組

(1)	「暮らすように旅する」プロジェクト
■ 宿泊施設向けの24時間対応コールセンターの設置(平成23年度～) ■ 「ザ・リッツ・カールトン京都」開業(平成25年度)、「フォーシーズンズホテル京都」平成28年春開業予定 ■ 宇多野ユースホステルでの「エブリデイワン事業」の充実、まち歩きと食を組み合わせたヘルスツーリズムの実施(平成22年度～) ■ 「千年の心得」において、朝や夜の文化体験メニューを提供(平成21年度～) ■ 自転車観光を普及・促進するためのホームページ、ショートムービーの作成(平成24年度～) ホームページ「京都自転車観光ナビ」の多言語化(平成25年度)	
(2)	「歩いてこそ京都」プロジェクト
■ 「歩いて楽しいまち・京都」観光案内標識アップグレード 合計402箇所を整備(平成23年度～) ■ 「バス・鉄道乗換アプリ『歩くまち京都』」の運用開始(平成25年度) ■ 「電車・バスでまわる『歩くまち・京都』京都フリーパス」の発売(平成22年度～) ■ 「歩くまち・京都」公共交通センターの設置(平成24年度) ■ 「京都一周トレイル」コースマップの英文併記化(平成20年度～) 外国人観光客向けダイジェストコースマップ発刊(平成24年度) ■ 京都マラソンの開催(平成23年度～)	
(3)	「市民の京都再発見」プロジェクト
■ 「子どもたちの京都再発見事業」の実施(平成22年度～) ■ 「京都観光副読本」の発行(平成22年度) ■ 子どもから大人まで市民が京都の魅力を改めて体験できるガイド付き観光ツアーを実施(平成22,23年度) ■ 「京都観光サポーター制度」の開始(平成23年度～) 「京都名誉観光大使」(3名)「京都国際観光大使」(7法人,個人33名) 「京都観光おもてなし大使」(80名)	
(4)	「心で“みる”京都」プロジェクト
■ 「京の七夕」事業の実施(平成22年度～) ■ 京都レストランウィンタースペシャルの実施(平成20年度～) ■ 京都市メディア支援センターの創設(平成25年度) ■ 良好な市街地景観の形成、町並み景観の保全・再生、京町家の保全・再生、屋外広告物適正化などの取組を推進	

(5)	「観光客の不満をゼロに」プロジェクト
■ ユニバーサルツーリズム・コンシェルジュの業務開始(平成24年度～) ■ 観光地のトイレの充実と美化の推進 洋式便器設置等改修・「観光トイレ」契約の締結 ■ 「五感で楽しむ京の旅」の冊子作成・配布(平成22年度～) ■ 無電柱化の推進 上七軒通・松原通・嵯峨嵐山地区・河原町通・北大路通・愛宕街道等で実施	
(6)	「新たな京都ファン獲得」プロジェクト
■ 梅小路公園の再整備 大型バス駐車場等の整備, 京都水族館開業, 梅小路公園の拡張再整備(平成23年度～) ■ 「和の文化」を習得する事業の実施 「京の夏の旅」, 「京の冬の旅」で提供	
(7)	「京都の魅力うまく伝える」プロジェクト
■ 外国人観光客向けウェブサイトの8言語化(平成24年度～) ■ 修学旅行生向けホームページでの食事情報・食文化の発信(平成23年度～) ムスリム(イスラーム教徒)観光客向けレストラン情報を専用ウェブページで発信(平成25年度～) ■ ラグジュアリー層に対する誘致の強化 ILTM Japan の誘致(平成24年度～)	

「未来・京都観光振興計画2010⁺」における成果

成果

- ・観光庁・京都市共同プロジェクト「観光立国・日本 京都拠点」の実施
- ・トラベル・アンド・レジャー誌ランキング 平成24年 9位 ⇒ 平成26年 1位
- ・ILTM Japan の誘致
- ・観光客数 平成22年: 4956万人 ⇒ 平成25年: 5162万人
- ・宿泊客数 平成22年: 1310万人 ⇒ 平成25年: 1308万人
- ・外国人宿泊客数 平成22年: 98万人 ⇒ 平成25年: 113万人
- ・修学旅行生数 平成22年: 100万人 ⇒ 平成25年: 110万人
- ・自治体初の MICE 戦略を策定し, 着実に推進
国際会議開催件数※ 平成25年: 177件 総参加者数10万人

※ JNTO (日本政府観光局) 統計基準による

指標の進ちょく

- ・感動があった人の割合 平成22年度: 78.6% ⇒ 平成25年: 55.0%

※調査票の変更に伴い単純比較できない。

- ・再来訪意向(日本人) 平成22年度: 56.1% ⇒ 平成25年: 57.8%
- ・再来訪意向(外国人) 平成22年度: 32.3% ⇒ 平成25年: 42.3%
- ・総合満足度(日本人) 平成22年度: 18.5% ⇒ 平成25年: 22.7%
- ・総合満足度(外国人) 平成22年度: 33.4% ⇒ 平成25年: 36.7%

< 参考指標 >

- ・観光消費額(一人当たりの平均単価)
平成23年: 12,631円, 平成24年: 12,841円, 平成25年: 13,565円

※ 再来訪意向, 総合満足度等の調査は, 平成22年4月から開始しているため, 平成22年のみ年度による調査結果となる。